



研究だより No.1

令和4年6月2日（木）

UP! UP!!

豊島区立池袋第三小学校

昨年度より、池袋第三小学校では、「友達とよりよく問題解決しようとする児童の育成」をテーマにして、校内研究に取り組んでいます。

本校の児童は、課題に関心をもち、すすんで解決しようとする意欲が高く、粘り強く取り組むことができるというよさがあります。このよさを伸ばしながら、さらに、友達と考えを伝え合うことにより、互いの考えをよりよいものにしたり、一人では気付くことのできなかった新たな考えを見出したりして、主体的に学びを深めていけるような児童を育てていきたいと考えています。今年度は、豊島区教育委員会研究開発指定校として研究発表会を行います。より一層、児童の学びを育ててまいります。

研究だより「Up! Up!!」では、研究授業の様子や児童の学びの変容、教員研修の内容などをお伝えしていきます。

学校教育
目標

よく考える子 思いやりのある子 じょうぶで元気な子

児童の
実態

基礎的学力は定着している。新しい課題に関心をもち、粘り強く解決する力があるが、考えに明確さや根拠がないので、話し合いが苦手である。

社会的
背景

学習指導要領「主体的・対話的で深い学び」「思考力・判断力・表現力」
豊島区教育ビジョン「確かな学力」「学びの応用力の伸長」「カリキュラムマネジメント」の推進

研究
仮説

学びの中で友達との対話を効果的に成立させる方法を身に付け、「思考力・判断力・表現力」の資質を向上させることで、一人一人の考えが組み合わさり、建設的に練り上げられて問題解決が可能になっていくものと考えられる。

目指す
児童像

対話を通して、自分や友達の考えを広げたり深めたりして、よりよく問題解決しようとする児童

低学年 伝え合うことを楽しみ、自分の思いや考えを広げられる子

中学年 互いの考えの共通点や相違点に着目して話し合い、自分の思いや考えをまとめることができる子

高学年 互いの立場や活動の意図を明確にしながら話し合い、自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができる子

研究の
手立て

対話力
の向上

思考スキル
思考ツール
の活用

評価
の工夫

表現力
の育成

先月行われた教員研修の内容をお伝えします。

教員研修 ～これからの学習評価の在り方～ 講師 早稲田大学 田中博之先生



ループリック評価表

今回の教員研修では、学習評価の課題を明確にし、新しい学習指導要領の考え方から、今後さらにどのような評価を行っていいのかを学びました。

以前の学習指導要領における学習評価の課題として、特に「評価の結果が児童の具体的な学習改善に繋がっていない」が挙げられました。学習評価とは、課題解決的な態度（自己調整力）を高めることで成長を促していくためのものです。

そこで、今年度の研究では、児童の学習改善に向けて「ループリック評価表」を学習の振り返りに活用していくことになりました。「ループリック評価表」とは、「ある課題をいくつかの要素に分けて、その要素ごとに評価基準を満たすレベルについて説明したもの」です。学習の始めに評価基準を児童自身が知ることで、最終到達地点が明確になり、自己評価も分かりやすくなります。また、学習の最後に「何を」「どのように」学んだのかを児童自身が振り返ることで、学ぶ意欲や意識を向上させるねらいがあります。

今年は年間講師として、早稲田大学教職大学院教授の田中博之先生をお招きして学習評価を中心に、目指す児童像に向けた授業づくりに励みます。

ご 挨 拶

校長 仁科 光一

本校では昨年度より、研究主題「友達とよりよく問題解決しようとする児童の育成」のもと、学習指導要領が示す「主体的、対話的で深い学び」の具現化を目指して、カリキュラム・マネジメントの視点で探究型の授業改善を推進しています。また、「秋田県能代市教育連携校」として、ICTを活用して児童間や教員間の交流により、異なる地域との学び合いを展開しています。

そして、これらの成果を「令和3・4年度 豊島区教育委員会研究開発指定校」として令和5年1月27日（金）に発表する予定です。保護者・地域の皆様にも本校の学力向上への取組をご理解いただけるように本誌「UP!UP!!」を発行してまいりますので、ご一読いただければ幸いです。